

活動を続けています。

近況報告をさせていただきます。

【ベトナムでの友好活動】

●ベトナム南部解放・統一50周年でベトナム訪問が取り組まれました。反帝連帯の旗を雄々しく掲げ、ベトナム戦争反対闘争が世界で繰り広げられ、1975年4月30日、南ベトナム政府大統領官邸が陥落したのが50年前でした。

NP0 日本ベトナム平和友好連絡会議（JVPF）訪問団は、ベトナム滞在中、1954年フランスからの解放を決定づけた激戦地デイエンビエンフー、80周年を迎えたベトナム北部200万人餓死事案跡の慰霊碑を訪ねました。

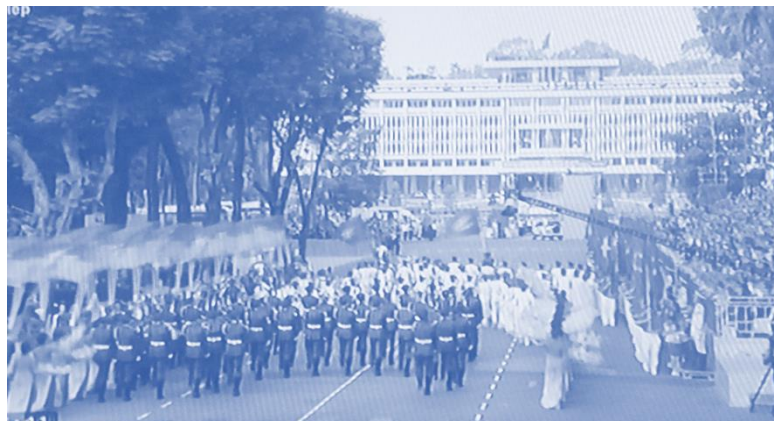
血で購われた平和を謳歌するベトナムで「今」を見つめ振り返るに、いつまで血を欲する「餓狼」たちが世界を席卷していることか、と考えさせられました。よって、生き証人＝枯葉剤爆弾被害者たちの《私の体の中では戦争が終わっていない》という叫びがある限り、枯葉剤爆弾被害者支援を通じ反戦平和の活動を続けたいと心に期しました。

この記念訪問に合わせて少数民族学生奨学金支援、枯葉剤被害者慰問・調査活動も行われました。

※近々発行のNP0 日本ベトナム平和友好連絡会議の会報『ホアビン』59号に掲載。ご希望の際は申し出ください。

【キューバ&ラテンアメリカ連帯】

●日本キューバ連帯委員会（CUBAPON）は、困窮するキューバ国民への緊急支援の呼び掛けをおこなってきました。——2024年秋、キューバは、ほぼ全域での大規模停電（ブラックアウト）、2つのハリケーン「オスカー」、「ラファエル」の上陸、2度にわたる地震に襲われ、大きな被害を受けました。キューバの苦しさの背



上：50周年記念式典の様様。統一会堂前の特設会場

下：JVPF主催の前夜祝賀会に参加いただいたグエン・ドクさん

景として絶対に無視できない事実は、60年以上にわたる経済封鎖によって強いられている甚大な損失です。キューバ全域の電力施設の1年間のメンテナンス費用は、経済封鎖で失われる18日分の損失とほぼ同額とされています。経済封鎖と闘うキューバと連帯するCUBAPONは、キューバの苦しみに寄り添い、ともに闘う思いをキューバの人々に届けたいと考えています。2025年1月—革命66年の年に——

募った支援金50万円は2025年4月駐日キューバ大使館を通じて届けました。

※詳細は同送のCUBAPONニュース73号を参照ください。

記：鎌田

～枯葉剤爆弾被害者支援/ベトナム南部解放・統一50周年記念～
2025ベトナムアンサンブル公演日程

記2025年6月16日

◎	10月17日（金）	藤沢市／市民会館小ホール（昼）
	10月18日（土）	（移動日）
◎	10月19日（日）	徳島・美馬市／地域交流センター・ミライズ
◎	10月20日（月）	神戸市／新開地あーと広場ホール（昼・夜）
△	10月21日（火）	（要請中）
◎	10月22日（水）	新潟市／ユニゾンプラザ多目的ホール
◎	10月23日（木）	東京・国分寺市／いずみホール
	10月24日（金）	（移動日）
◎	10月25日（土）	埼玉・東松山市／市民活動センターホール
◎	10月26日（日）	埼玉・松伏町／田園ホール・エローラ
	10月27日（月）	（移動日）
△	10月28日（火）	（要請中）

◎会場確定 ○調整中 △要請中



～《80 周年に》、直下で進む燐祭（ホロコースト）で考える～

生贄を捧げないとユートピアは作れないのか！

●ベトナム南部解放・統一 50 周年でベトナムを訪ねてきた。そこで、枯葉剤爆弾被害の実相を知るため再びグエン・ドクさんにも出会った。その他多くの戦跡を訪ね見聞するなかで、現在直下進む《ガザでの燐祭》を考えざるをえなくなった。

●《ガザにおけるイスラエル軍のパレスチナ人へのジェノサイド》で、思いをより強くした。戦争を遠い日の出来事とする世代が日本の政治・経済・社会を掌っているなか、よほど強かなアピールをしていかないと、「破滅」への道は簡単に敷かれていくのではと思い知らされている昨今である。

●ガザの食糧配給所爆破は、アメリカが主導する民間の「ガザ人道財団」が手配した食糧配給所へ飢餓状態のパレスチナ人を誘い込み、それをイスラエル軍が攻撃するという「燐祭(ホロコースト)=生贄を貢」の様相となっている。第二次大戦下でユダヤ人やローマ人はナチスによるホロコーストでヨーロッパ中から「東方へ移住」あるいは「労働収容所へ行く」と強制され「アウシュビッツの殲滅収容所」へ連れ去られたことと被る。

(補注) **ローマ人とは**：ローマはインドを発祥の地とし、6～7 世紀から移動を始めたと言われています。彼らは現在、ヨーロッパを中心に世界中で暮らしています。全人口はおおよそ 800 万人～1200 万人です。「ローマ」は従来、「ジプシー」などと呼ばれてきた人々たちです。ナチスはユダヤ人に対してと同様、ローマを迫害しました。しかし、ユダヤ人の悲劇に対して、ローマの悲劇は忘れ去られた歴史です。(アムネスティ資料より)

●パレスチナ人を生贄にしその**血でガザの地を豊穡**にして住むとでもいうのか。

——6 月 1 日、世界中に怒りの声が渦巻く事態が発生した。イスラエル当局の指示でガザの食料配給所に集まった飢えたパレスチナ人数百人に、イスラエル軍が発砲したのだ。その結果は、イスラエルが運営し、アメリカが支援するガザ人道財団 (GHF) が 5 月に新設されて以来、最大規模の虐殺だった、と目撃者は語る。

AP 通信によると、ガザの保健当局者と、南部の都市ラファ近郊の現場での複数の目撃者はこう証言している。「イスラエル軍は、イスラエルの支援を受けた財団が運営する食料支援の現場から 1 キロほど離れたところにいる群衆に発砲した」

ガザの救護所の近くにスタッフを置くスイスの人権擁護団体ユーロメド・ヒューマン・ライツ・モニターは 1 日朝の声明でこう述べた。「国際社会は、イスラエルにガザでの非人道的な物資配給の仕組みをやめさせるため、即座に断固とした行動をとらなければならない。今日、ラファの南にあるアメリカが支援する援助センター付近で虐殺が発生し、イスラエル軍が飢餓に苦しむ市民 220 人以上を殺傷した」

同団体の現地チームは、ラファのテル・アル・スルタンで、イスラエル軍が設置した援助物資配給センターの近くで、6 月 1 日 (日) の夜明けに集まった数千人の市民に対

してイスラエル軍が発砲したと報告。調査初期のデータによれば、この攻撃により、2 人の女性を含む少なくとも 31 人の市民が死亡し、200 人以上が負傷。数人が行方不明のままだ。—— (ネットニュースより)

●一年前の会報で《「平和のためにどうして戦争をするのですか」 (原爆の図展での小学生のメッセージ) 》の問いを報告してきたが、それに「形＝行動」で答えることができず一年が過ぎてしまった。戦争という名の「殺しあい」を「眺め」「流されて」いく日々には忸怩たる思いだ。

《私の体の中では戦争が終わっていない》という叫び

●これは、枯葉剤爆弾被害者たちの叫びである。枯葉剤爆弾被害者たちは形になって表れた外相の障害を持った人々とともに体内に染色体損傷という「不発弾」を抱えた人々も多く存在する。

いつ、いかなる状況下で爆発するとも限らない**《枯葉剤という不発弾》**を抱えた被害者たちに、30 年にわたり寄り添ってきた。そこには、“わたしの体の中では戦争が終わっていない”という枯葉剤爆弾被害者の叫びがあったからだ。

ベトナム戦争枯葉剤爆弾被害者支援活動の支援金づくりで始めたベトナム民族アンサンブルチャリティコンサートは**今秋で 30 年**となる。

●東京・新宿区の旧陸軍軍医学校跡地で 1989 年 7 月、**人骨**が発見され、この人骨が中国・ハルピンにあった 731 部隊 (関東軍防疫給水部) と関係があるのではないかと長年真相究明の活動を続けてきている川村一之さん (軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会代表) から、この「人骨 (= 遺骨) はいつまでもかつての戦争医学犯罪の告発者として存在してくれるでしょう」という内容の資料を頂いた。戦後 80 年を迎えてなお《人骨が告発し続けるを得ない》状況が直下にある。

●中国・ハルピンにあった 731 部隊跡を幾度か視察したが、そこでは細菌兵器研究とともに**「枯葉剤研究」**も行われていた。731 部隊の研究資料が部隊長・石井四郎らの戦犯免責との取引で米国に渡ったことは知られている。真相は迎れないが、その後大量の生物兵器、化学兵器米国で作られ試みられていることから、ベトナム戦争で 1961 年から開始された枯葉剤散布作戦 (Operation Ranch Hand) に繋がっていったことは容易に推察されよう。



《調査・慰問活動》鹿児島 JVPF は、5 月 1 日、ベトナム北部バクザン省で枯葉剤被害者の調査・慰問を実施した。被害一世の Đào Xuân Âu, 1945 年生。北部バクザン市 Song Khê 坊 Song Khê 団地。南部戦線で被災。

旧日本軍のインドシナ敗退 80 周年にあたり

2025 年 6 月 15 日 IFCC 鎌田篤則